

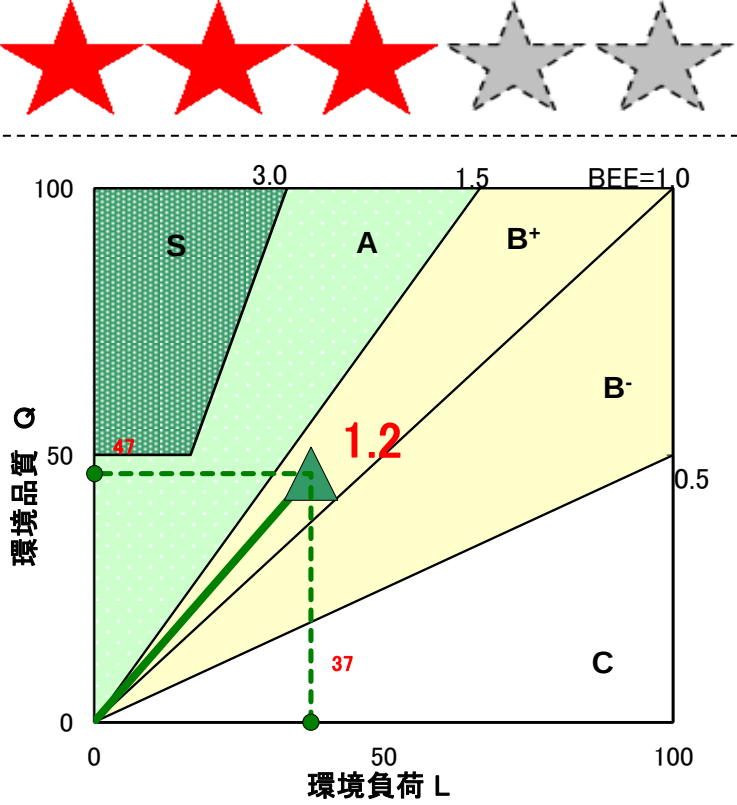
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	仁誠会クリニック新屋敷改築工事	階数	地上4F地下1階		
建設地	熊本市中央区新屋敷1丁目14-2	構造	S造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	95 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	工場, 病院,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年8月4日		
敷地面積	1,124 m ²	作成者	吉永 拓郎		
建築面積	848 m ²	確認日	2014年8月5日		
延床面積	3,111 m ²	確認者	伊東 正太郎		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.2

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

68%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



80

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

84.4

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点

72.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

評価点

82.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

78.0

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	    
80点以上100点未満	   
60点以上80点未満	  
40点以上60点未満	 
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

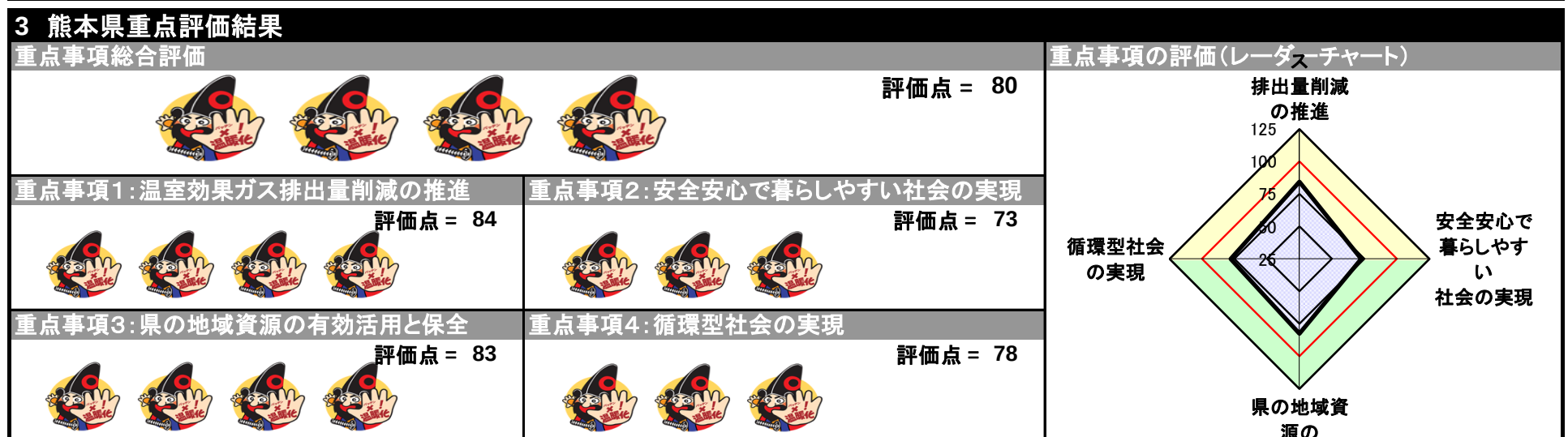
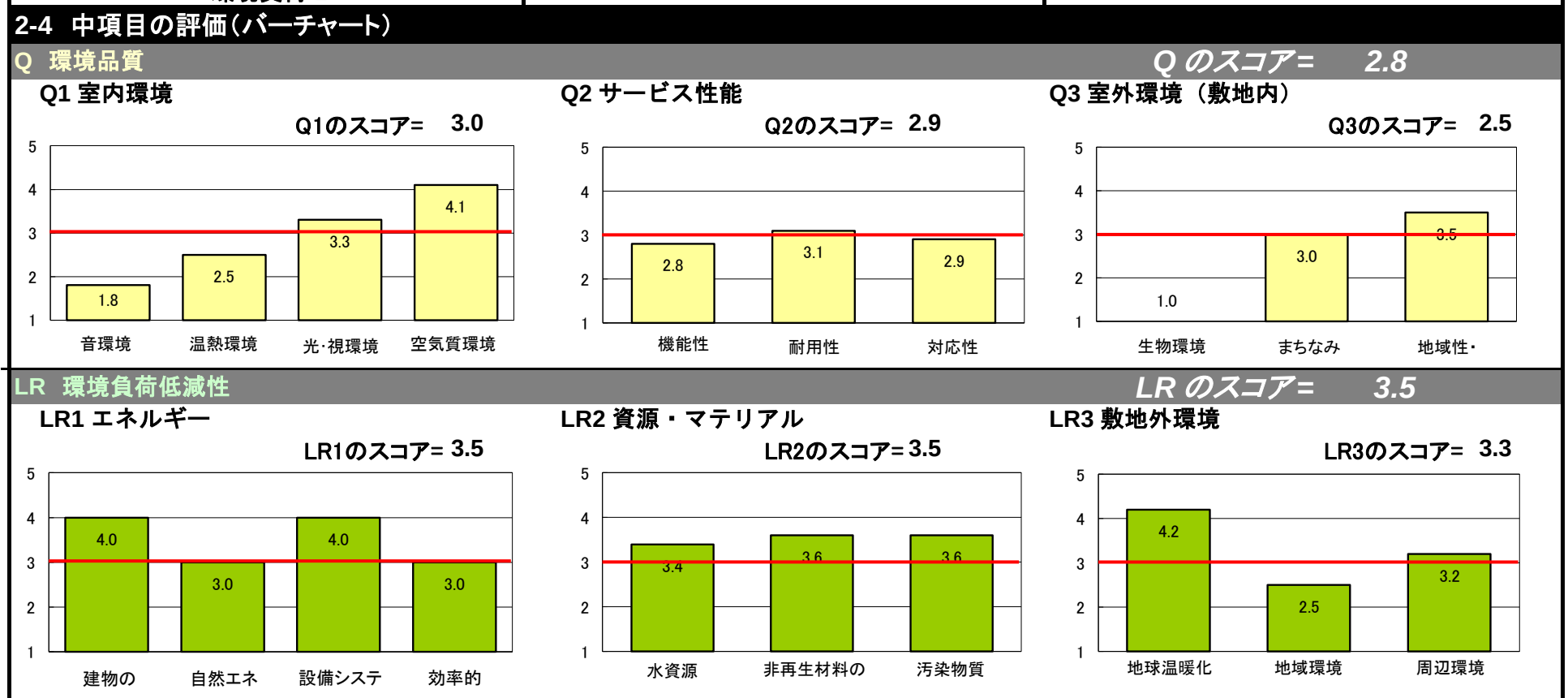
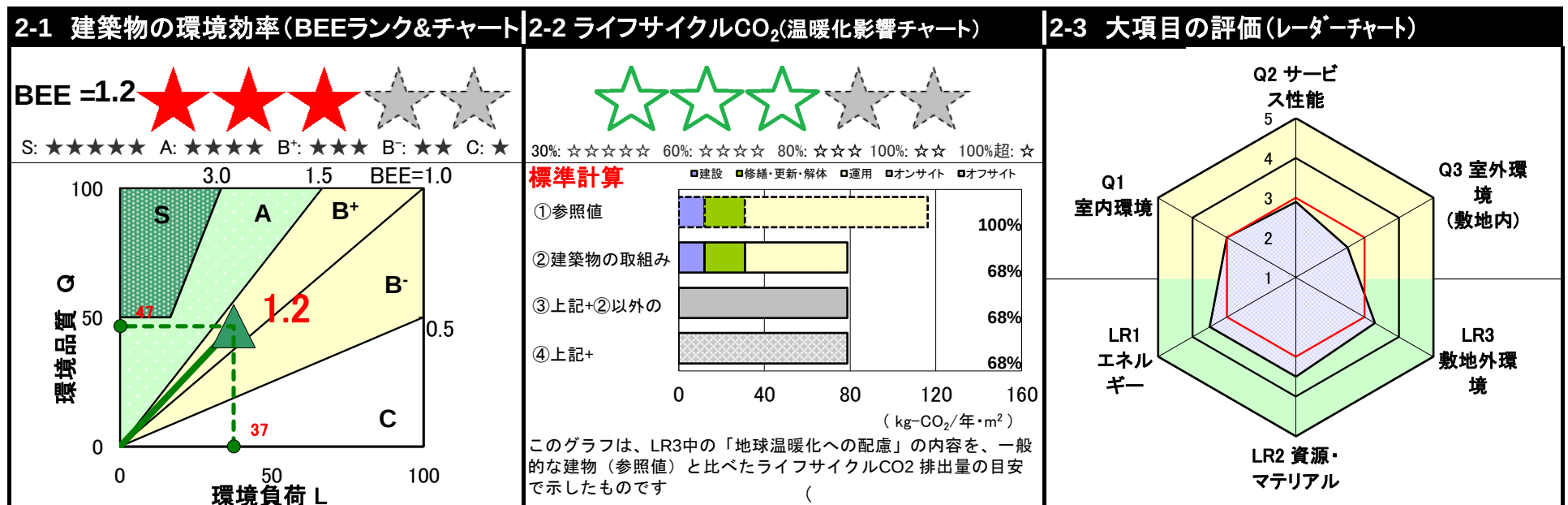
Page : 1/7

Sheet : 1/5

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（熊本地域）2010年改訂版Ver.2（BPI/BEI両方） | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仁誠会クリニック新屋敷改築工事	階数	地上4F地下1階
建設地	熊本市中央区新屋敷1丁目14-2	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	95 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場、病院、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年8月4日
敷地面積	1,124 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	848 m ²	確認日	2014年8月5日
延床面積	3,111 m ²	確認者	伊東 正太郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補			■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPVBEI対応)			
仁誠会クリニック新屋敷改築工事			■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\			
スコアシート 実施設計段階			欄に数値またはコメントを記入			
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境			0.38			3.0
1 音環境		1.8	0.15	2.6	1.00	1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	5.0	0.40	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	5.0	1.00	
2 設備騒音対策			-		-	
1.2 遮音		1.0	0.40	1.0	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.44	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		1.0	0.56	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	1.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		2.5	0.35	2.6	1.00	2.5
2.1 室温制御		3.2	0.50	3.4	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性			-		-	
3 外皮性能	(病院) 【共用部】外壁U=0.394、窓U=4.14、SC=0.47 【住居部】外壁U=0.394、窓U=4.15、SC=0.44	4.0	0.25	4.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
5 温度・湿度制御			-		-	
6 個別制御			-		-	
7 時間外空調に対する配慮			-		-	
8 監視システム			-		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.3	0.25	3.6	1.00	3.3
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率	(病院) 【共用部】待合:3.83% 【住居部】病室:2.00%	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口			-		-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア			-		-	
2 屋光制御		3.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策			-		-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.1	0.25	4.1	1.00	4.1
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	(病院) 【共用部】【住居部】F☆☆☆☆使用、化学物質濃度測定	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策			-		-	
3 タニ・カビ等			-		-	
4 レジオネラ対策			-		-	
4.2 換気		2.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4 給気計画			-		-	
4.3 運用管理		5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00		-	

Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	2.9		
1 機能性				2.8	0.40	4.0	1.00	2.8		
	1.1 機能性・使いやすさ		(病院)(工場)最低限レベルを満たす	4.0	0.40	5.0	0.60			
		1		広さ・収納性	-	-	5.0		1.00	
		2		高度情報通信設備対応	-	-	-		-	
		3		バリアフリー計画	4.0	1.00	-		-	
	1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.5	0.40			
		1		広さ感・景観	-	-	4.0		0.50	
		2		リフレッシュスペース	-	-	-		-	
		3		内装計画	1.0	1.00	1.0		0.50	
	1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-			
		1		維持管理に配慮した設計	3.0	0.50	-		-	
		2		維持管理用機能の確保	3.0	0.50	-		-	
		3		衛生管理業務	-	-	-		-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1		
	2.1 耐震・免震		給水・給湯2種類にB以上を使用	3.0	0.48	-	-			
		1		耐震性	3.0	0.80	-		-	
		2		免震・制振性能	3.0	0.20	-		-	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.33	-	-			
		1		躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-		-	
		2		外壁仕上り材の補修必要間隔	2.0	0.23	-		-	
		3		主要内装仕上り材の更新必要間隔	3.0	0.09	-		-	
		4		空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08	-		-	
		5		空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0	0.15	-		-	
		6		主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23	-		-	
	2.3 適切な更新			-	-	-	-			
		2.4 信頼性			3.4	0.19	-			-
1			空調・換気設備	3.0	0.20	-	-			
2			給排水・衛生設備	・節水型器具の採用 ・可能な限り配管系統の区分	4.0	0.20	-	-		
3			電気設備		・非常用発電設備 ・浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-		-
4			機械・配管支持方法	3.0		0.20	-	-		
5			通信・情報設備	3.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性				2.9	0.29	3.2	1.00	2.9		
	3.1 空間のゆとり		(病院) 【共用部】比率:0.22 【住居部】比率:0.19	2.8	0.31	3.4	0.50			
		1		階高のゆとり	2.0	0.60	3.0		0.60	
		2		空間の形状・自由さ	4.0	0.40	4.0		0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50			
				3.0	0.38	-	-			
	3.3 設備の更新性	1		空調配管の更新性	3.0	0.17	-		-	
		2		給排水管の更新性	3.0	0.17	-		-	
		3		電気配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく修繕、更新できる(天井点検口)	5.0	0.11		-	-
		4		通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく修繕、更新できる(天井点検口)	5.0	0.11		-	-
		5		設備機器の更新性		1.0	0.22		-	-
		6		バックアップスペースの確保		3.0	0.22		-	-
	Q3 室外環境(敷地内)				—	0.32	-		-	2.5
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5		
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	・空地率72.14% ・水平投影面積率(ピロティ)61.22% ・舗装率24.54% ・3階一部緑化 ・空調室外機屋上設置 ・ガス給湯器屋上設置	3.0	0.50	-	-			
	3.2	敷地内温熱環境の向上		4.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.5		
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.5		
1 建物の熱負荷抑制			外部に面する壁屋根の断熱	4.0	0.23	-	-	4.0		
2 自然エネルギー利用				3.0	0.22	-	-	3.0		
	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-			
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-			
	3	設備システムの高効率化	省エネ機器	4.0	0.33	-	-	4.0		
	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		#VALUE!	4.0		-	-			
	集合住宅の評価			3.0		-	-			
4 効率的運用				3.0	0.22	-	-	3.0		
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			

LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.5	
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		(病院) ・水栓(自動水栓) ・節水型便器(グリーン購入適合品)	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減		—	2.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		・再生クラッシュラン(路盤材) ・パーティクルボード(置床)	4.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		壁・天井: 軽鉄下地(分別可能)	5.0	0.24	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		・グラスウール(非発泡剤)	3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		5.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			リサイクル資材の活用	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-		-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		光害対策ガイドライン項目の過半を満足	3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

医療施設として必要な機能性・快適性及び将来に亘る運用性を考慮し、施設利用者（外来・入院・医師・事務・医療・調理スタッフ）すべての視点で検討を行い、制限されたスペースの中で無駄を省き、必要最低限の施設計画を行った。

Q1 室内環境

- ・熱線反射ガラスを採用し、断熱性能を高めた。
- ・使用する建材はF☆☆☆☆とし、化学物質汚染防止に配慮した。

Q2 サービス性能

- ・比較的耐久性のある設備配管を採用した。また、節水型器具や非常用発電設備を設け、建物の維持管理機能の確保に努めた。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・周辺景観との調和に配慮するとともに、ピロティによる日陰形成により暑熱環境の緩和を図った。

LR1 エネルギー

- ・熱線反射ガラスで遮熱性を高めた。
- ・高効率設備機器（LED照明）を採用。

LR2 資源・マテリアル

- ・グリーン購入適合品となる節水型機器を採用し水資源保護に配慮した。

LR3 敷地外環境

- ・光害対策ガイドラインの過半を満足しており、光害の抑制に配慮している。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 仁誠会クリニック新屋敷改築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		80.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				84.4	0.40	33.76
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.06			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.06			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.06			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.12			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78	0.20	15.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数